

# 愛知県初記録の外来種 フウノキギンバネスガ *Thecobathra lambda* (Moriuti, 1963) (鱗翅目スガ科)

菊地波輝<sup>1)</sup>・岩下幸平<sup>2)</sup>・長谷川道明<sup>1)</sup>

First record of invasive species

*Thecobathra lambda* (Moriuti, 1963) (Lepidoptera: Yponomeutidae) from Aichi Prefecture

Namiki Kikuchi<sup>1)</sup>, Kouhei Iwashita<sup>2)</sup> and Michiaki Hasegawa<sup>1)</sup>

## はじめに

フウノキギンバネスガ *Thecobathra lambda* (Moriuti, 1963) は台湾産の標本に基づいて記載されたスガ科の一種であり (Moriuti, 1963), タイ, 台湾, 中国に生息している (Moriuti, 1982). 日本では2017年に福岡県, 長崎県, 鹿児島県で侵入が確認された外来種で (柳本ほか, 2018), その後, Sakagami et al. (2025) により, 兵庫県, 徳島県, 香川県, 愛媛県から報告された.

筆者らは, 本種の記録のない愛知県において, 本種の発生を確認したので報告する.

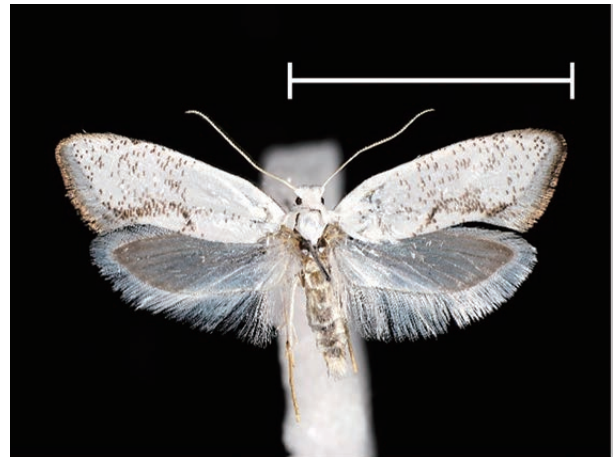
モミジバフウ *L. styraciflua* L. の葉を綴って摂食することが知られており (Moriuti, 1963; 柳本ほか, 2018), 今回もモミジバフウにて発生を確認した. 発生の中心と思われる被害木ではほとんどの葉が枯れており, 遠目に見ても発生が確認できる状態であった. また11月2日の観察では日没時刻である17時頃に配偶行動が確認され, 日没前は下草等に静止していた成虫が日没時は盛んに飛び回り, 雌成虫によるコーリングとそれに定位する雄成虫及び交尾の成立を確認した (第2図).

## 記 録

フウノキギンバネスガ *Thecobathra lambda* (Moriuti, 1963) (第1図)

**標本:** 5 exs. (豊橋市自然史博物館所蔵 TMNH-I-33838 ~ 33842), 愛知県豊橋市老津町南山 (万場緑地), 2025年10月30日, 長谷川道明採集. ; 6 exs., 同地, 2025年11月2日, 岩下幸平採集・保管.

**採集状況:** 日中から日没にかけて, 多数の個体が下草や樹木の葉に静止, もしくは飛翔している個体を採集した. 本種の幼虫はフウ *Liquidambar formosana* Hance,



第1図. フウノキギンバネスガ (岩下採集・保管). スケールバー: 1.0 cm

1) 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi, Aichi 441-3147, Japan.

2) 愛知県新城設楽農林水産事務所. Aichi Prefecture Shinshiro Shitara Agriculture, Forestry, and Fisheries Office, 6-2 Kogaitsu, Taguchi, Shitara, Aichi 441-2301, Japan.

Corresponding author: Namiki Kikuchi. E-mail: namikikikuchi@gmail.com

原稿受付 2025年11月20日. Manuscript received Nov. 20, 2025.

原稿受理 2026年2月7日. Manuscript accepted Feb. 7, 2026.

キーワード: 分布記録, モミジバフウ, フウ.

Key words: distributional record, *Liquidambar styraciflua*, *Liquidambar formosana*.



第2図. 交尾するフウノキギンバネスガ (2025年11月2日, 万場調整池にて, 岩下撮影).



第3図. 食害痕のあるフウ (2025年11月16日, 植田町東畑にて, 菊地撮影). A, 全景; B, 食害痕の拡大.

その他の確認状況：菊地が10月30日に万場調整池の発生地周辺で採集した繭を持ち帰ったところ、フウノキギンバネスガの成虫のほか、2種の寄生蜂（ハマキアリガタバチ *Goniozus japonicus* Ashmead, 1904 と未同定のチビアメバチ亜科）の羽化を確認した。羽化した成虫は液浸標本として菊地が保管している。

また、豊橋市植田町東畑の国道259号線沿いのフウでも発生の可能性があるとの情報を得て11月16日に菊地が確認したところ、被害木ではほとんどの葉が枯

れ、食害痕及び羽化後の繭が確認されたが、成虫は確認できなかった（第3図）。

## 考 察

本報告執筆時点で日本国内においてフウノキギンバネスガの分布が確認されているのは九州、四国、中国、近畿地方であり（Sakagami et al., 2025）、東海地方以東からは初めての記録である。当地では調整池を囲むように緑化帯が設けられており、発生源となるモミジバフウも点々と植栽されているが、発生数は北側で多く、他では非常に少ないか見られなかった。このことから、当地ではフウノキギンバネスガの侵入から間もない可能性が高い。一方、地理的に隣接していない植田町でも発生が確認されており、豊橋市内の街路樹だけでも1,000本以上のモミジバフウが植栽されている（豊橋市公園緑地課、私信）ことから、今後の分布拡大が危惧される。また、福岡県では越冬したと思われる個体が採集されており（Sakagami et al., 2025）、日本国内で本種が越冬している可能性が高い。愛知県内における越冬状況の確認や、景観に影響を及ぼすような被害に至る以前の防除のため、今回の発生地における春期の発生を監視する必要があるだろう。

本種の一次寄生者については、Sakagami et al. (2025) でハマキアリガタバチとスガヤドリチビアメバチ *Diadegma armillatum* (Gravenhorst, 1829) が記録されており、今回得られた未同定のチビアメバチ亜科もこの種である可能性がある。

Sakagami et al. (2025) では、フウノキギンバネスガ及びスガヤドリチビアメバチについて、日本国内集団における遺伝的多様性が報告されている。本報告で得られた愛知県の標本についても、将来的に遺伝子解析を行うことが、これらの分布拡大過程を理解する上で有用であろう。

## 謝 辞

今回の報告にあたり、本種発生の情報を豊橋市自然史博物館へお伝えくださった山本賢治、夏目泰裕の両氏（豊橋市公園緑地課）、文献を供与くださった屋直禎央博士（九州大学大学院）にお礼申し上げます。

## 引用文献

Moriuti, S., 1963. Studies on the Yponomeutoidea (II), Two Yponomeutid

- genera, *Niphonympha* and *Pseudocalantica*, of Japan and Formosa (Lepidoptera). *Kontyû*, **31**: 215–223.
- Moriuti, S., 1982. A New and an Unrecorded Species of *Thecobathra* Meyrick (Lepidoptera, Yponomeutidae) from Thailand. *Tyô to Ga*, **33**(1, 2): 61–64.
- Sakagami, K., Tomura, S., Yagi, S. and Shimizu, S., 2025. Distribution range, genetic structure, and natural enemies of an invasive pest moth *Thecobathra lambda* (Lepidoptera: Yponomeutidae) damaging Liquidambar trees in Japan. *Applied Entomology and Zoology*, **61**(1) : 23–33. <https://doi.org/10.1007/s13355-025-00932-w>
- 柳本和哉・榎崎康二・坂巻祥孝・上田明良・後藤秀章, 2018. 国内初記録のギンバネスガの一種 (*Thecobathra lambda* (Moriuti) フウノキギンバネスガ(新称))によるモミジバフウ (*Liquidambar styraciflua*) の被害について. 森林防疫, **67** (1) : 5–8.